



2025年6月17日

株式会社みずほフィナンシャルグループ

気候・自然関連レポート 2025 の発行について

株式会社みずほフィナンシャルグループ（執行役社長：木原 正裕）は、〈みずほ〉の気候変動および自然資本に関する取り組みを統合的にまとめた「気候・自然関連レポート 2025」を本日発行しました。

【気候・自然関連レポート 2025 URL】

https://www.mizuho-fg.co.jp/sustainability/report/pdf/climate_nature_report_2025.pdf（片開き版）

https://www.mizuho-fg.co.jp/sustainability/report/pdf/climate_nature_browsing_2025.pdf（見開き版）

当社は、2020年に本邦金融機関グループとして初となるTCFDレポートを発行し、2024年には、気候と自然を一体に捉えた「気候・自然関連レポート」へと発展させる等、社会の変化に対応した開示に取り組んできました。

2024年度は、気候と自然の各領域において、戦略に沿った具体的なアクションを拡充させるとともに、これらを下支えする基盤の強化にも注力しました。本レポートでは、2025年5月発行の「Sustainability Progress2025」（※1）でも開示した主要な進捗に加えて、TCFD・TNFD（※2）提言を踏まえた取り組みの状況や、各テーマでの具体的な事例や指標の進捗について詳しく記載しています。

〈みずほ〉は、グループの力を結集し、さまざまなステークホルダーとともに、困難な課題に対する打ち手を考え「ありたき世界」の実現に向けた挑戦を続けていきます。

※1 2025年5月9日プレスリリース「『Sustainability Progress2025』の発行について」https://www.mizuho-fg.co.jp/release/pdf/20250509release_jp.pdf

※2 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) ・ 自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD)

■気候・自然関連レポート 2025 ハイライト

2024年度のプログレス

方針・目標・計画の策定フェーズから、戦略に基づくアクション実行フェーズへ



気候変動対応の更なる深化

- **エンゲージメントの実効性向上**
 - ありたき日本の産業構造 “グランドデザイン” 策定
 - 取引先エンゲージメント
GHG排出削減を起点とした対話 約100社
移行リスクセクターとの対話 約550社
- **着実なトランジションに向けた資金供給**
- **カーボンニュートラルに向けた布石**
 - 水素・カーボンクレジット等への取り組み強化
- **気候関連リスク管理の枠組み高度化**
 - 移行リスク対応状況の評価基準改定

自然資本への取り組み加速

- **依存・影響分析の強化**
 - 取引先の事業における依存・影響をサステナスコア分析により深掘り
 - 自社拠点の依存・影響やリスクを分析
- **取引先のネイチャーポジティブ移行支援**
 - 自然関連・ブルーファイナンス 24年度 14件
- **サーキュラーエコノミービジネスの強化**

アクションを下支えする基盤強化

- **ケイパビリティ・ビルディング**
- **ステークホルダーとの連携・共創**

指標・目標 ハイライト

サステナブルファイナンス額		GHG排出削減	
2019-24年度	うち環境・気候変動対応	Scope1,2 (自社排出)	Scope3 (投融資を通じた排出)
累計40.3兆円	累計20.5兆円	24年度 64%削減 見込(20年度比)	中期目標設定セクターで 着実に削減が進展
リー・ゲートブル*1		ケイパビリティ・ビルディング	
サステナブルファイナンス(ローン)	公募SDGs債	サステナビリティ経営エキスパート	環境・エネルギー分野 コンサルタント
グローバル 1位	6年連続 国内 1位	25/3 時点 約1,850名	25/3 時点 約140名

*1 (累計期間) 2024年4月~2025年3月 (出所)サステナブルファイナンス(ローン)：LSEG、公募SDGs債：Capital Eye

以上